

技術名称：改質アスファルト防水 常温複合法
「アスレイヤ工法」

1. 審査証明対象技術

1.1 審査証明依頼者

田島ルーフィング株式会社
代表取締役社長 田島 国雄
東京都千代田区岩本町 3-11-13

1.2 技術の名称

改質アスファルト防水 常温複合法
「アスレイヤ工法」

1.3 技術の概要

在来のアスファルト防水熱工法の水密性・信頼性に対応する技術を有するアスレイヤ工法は、プレポリマー成分である A 剤とアスファルト系硬化剤成分である B 剤を混合攪拌して使用するポリマー改質アスファルト系塗膜防水材と強靱で柔軟性の高い改質アスファルトルーフィングを組み合わせた常温複合法であり、一体化したメンブレン防水層を形成し、長期に渡り安定した性能を保持する。

2. 開発の趣旨

在来のアスファルト防水熱工法は、アスファルト系ルーフィングを溶解釜で熔融させた防水工事用アスファルトで張付けて防水層を形成させる積層防水である。

積層工法により防水信頼性は高いが、大型溶解釜装置の運搬・搬入・荷揚げ等の移動に関する問題が以前からある。また、裸火を使用するため火災の懸念や熔融アスファルト温度が高温（約 260℃）なので「火傷」「煙」「臭気」等の作業環境にも問題を抱えている。

アスレイヤ工法は、在来のアスファルト防水熱工法と同等の防水性能を有し、作業環境に配慮した積層防水である。

3. 開発の目標

- (1) 在来のアスファルト防水熱工法と比較して、簡易な工程で同等の防水性能を有すること。
- (2) 加熱熔融アスファルトを使用しないことにより、在来のアスファルト防水熱工法と比較して環境負荷の軽減を図れること。

4. 審査証明の方法

- (1) 在来のアスファルト防水熱工法と比較して、簡易な工程で同等の防水性能を有することに係る確認方法
 - ① 張付け材の耐久性能比較
 - ② 防水層の引張試験における抗張積の比較
 - ③ 防水層の破断抵抗性試験
 - ④ 防水層の性能評価試験（JASS 8 T-501-2014 メンブレン防水層の性能評価試験方法）

- ⑤ 防水層の重量測定
- ⑥ 工程の比較
- (2) 加熱溶融アスファルトを使用しないことにより、在来のアスファルト防水熱工法と比較して環境負荷の軽減を図れることに係る確認方法
- ① レイヤコート及び3種防水工事用アスファルトの臭気測定

5. 審査証明の前提

本審査証明は、依頼者から提出された資料等には事実と反する記載がなく、依頼者の責任において適正に設計・施工・品質管理等が行われることを前提に、依頼者から提出された資料に基づいて行われたものである。

6. 審査証明の範囲

審査証明は、依頼者より提出された開発の趣旨、開発の目標に対して設定された確認方法により確認した範囲とする。なお、個々の工事等の実施過程及び実施結果の適切性は審査証明の範囲に含まれない。

7. 審査証明結果

本技術について、前記の開発の趣旨、開発の目標に照らして審査した結果は、以下のとおりである。

- (1) 在来のアスファルト防水熱工法と比較して、簡易な工程で同等の防水性能を有するものと判断される。
- (2) 加熱溶融アスファルトを使用しないことにより、在来のアスファルト防水熱工法と比較して環境負荷の軽減を図れるものと判断される。

8. 留意事項及び付言

- (1) 本工法の適用にあたっては、建物の種類、防水部位に相応した適切な防水仕様の選定と塗膜材の膜厚管理を行う必要がある。
- (2) 管理者、作業者が本技術の施工マニュアル等について事前に十分に理解するように配慮すること。

9. 審査証明の経緯

- (1) 2016年7月26日付けで依頼された本技術について技術審査を行い、2016年9月26日付けで技術審査を完了した。